

## BYD、中国初のNEV専用オールテレーン・サーキット開業

- BYD、中国初のNEV専用オールテレーン・サーキットを鄭州に開業
- 屋内砂丘や渡河プールなど8つの体験ゾーンを備え、ギネス認定施設も登場
- 合肥・紹興にも順次展開し、レース文化とNEV普及を推進

【中国・鄭州 8月14日】—BYDは8月14日、中国・鄭州市に国内初となる新エネルギー車（NEV）専用オールテレーン・サーキットを開業しました。本施設は同社の「Technology for All（すべての人に技術を）」という理念を形にしたもので、サーキット走行、プロドライバー育成、多彩な走行体験を通じてNEV文化の普及を目指します。今後は合肥・紹興などの都市にも順次開設します。

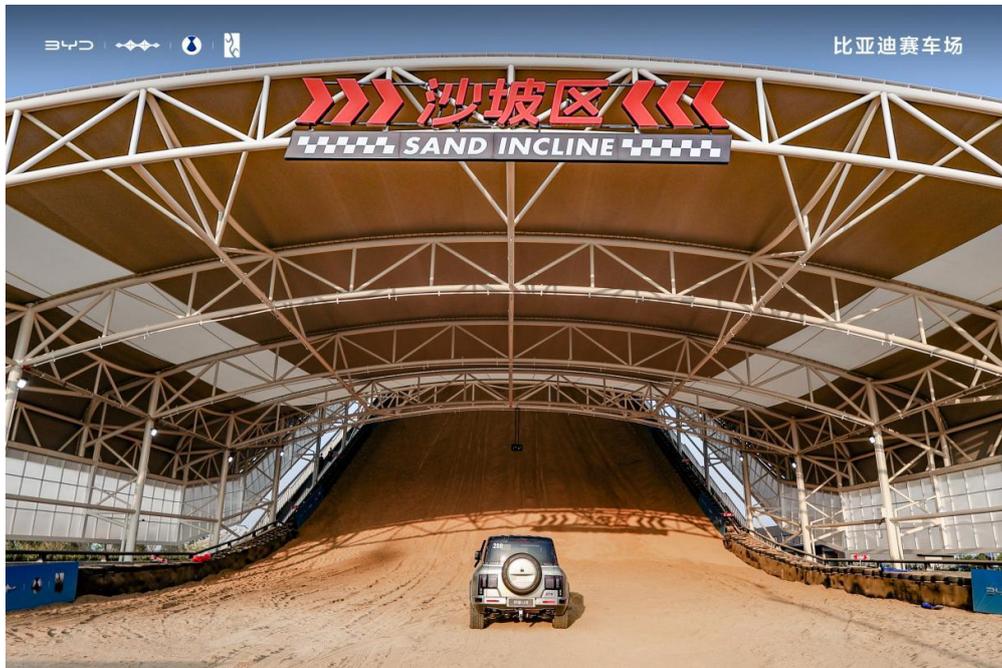
施設内には、屋内砂丘、低摩擦サークル、キックプレート、渡河プール、ダイナミックパドック、レーストラック、オフロードパーク、キャンプエリアの8つの体験ゾーンがあります。



## 多様な走行体験を一か所で

従来の単一コース型とは異なり、渡河走行や屋内での砂丘登坂、オフロード走破など、多彩な走行を一度に楽しめます。

落差 29.6 メートル、傾斜 28 度の屋内砂丘は、車両試験用として世界最大・最高としてギネス認定を受けています。モンゴル自治区アラシャー砂漠の砂質を再現する 6,200 トンの砂を使用し、本格的な砂丘走行を体験できます。

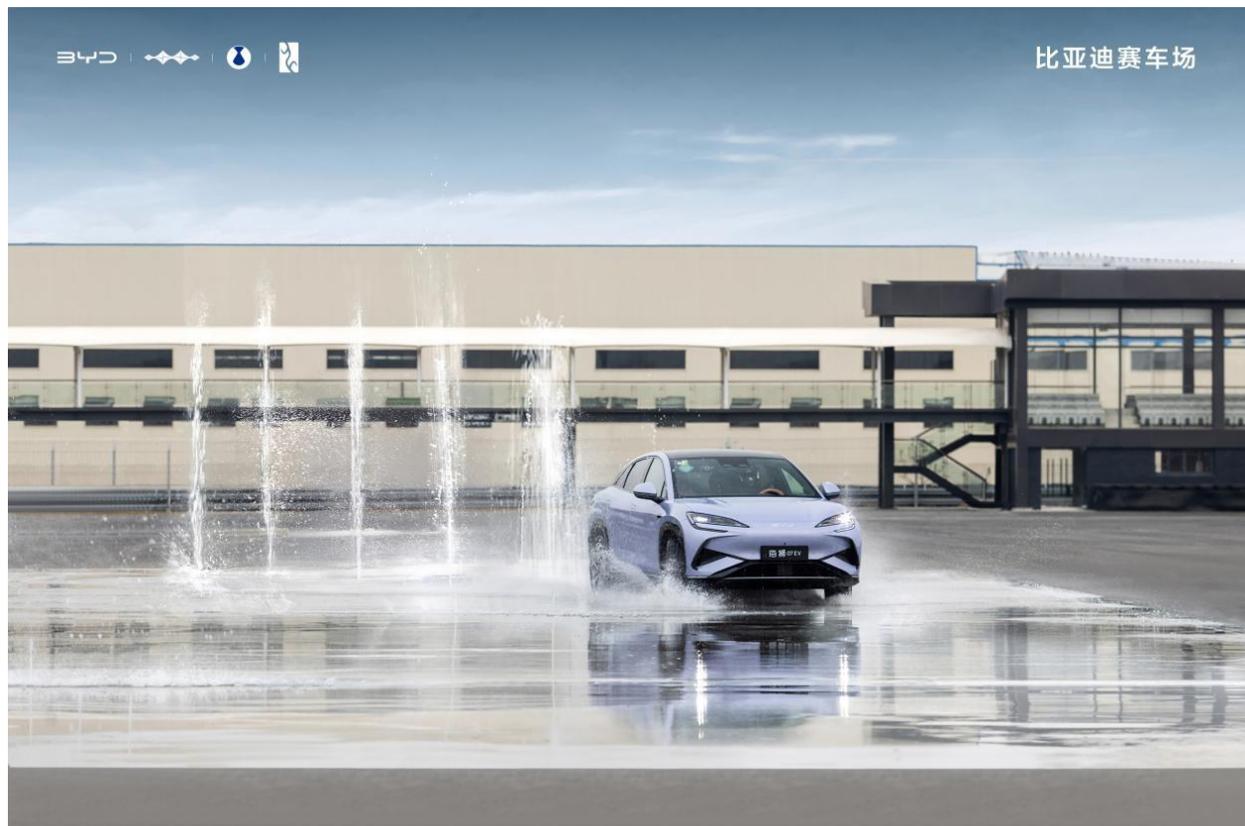


全長 70 メートルの渡河プールは高級 SUV「仰望 U8（ヤンワン ユーエイト）」専用設計され、水中観察窓から e<sup>4</sup>プラットフォーム制御による前進・旋回・後退の様子を間近で見られます。

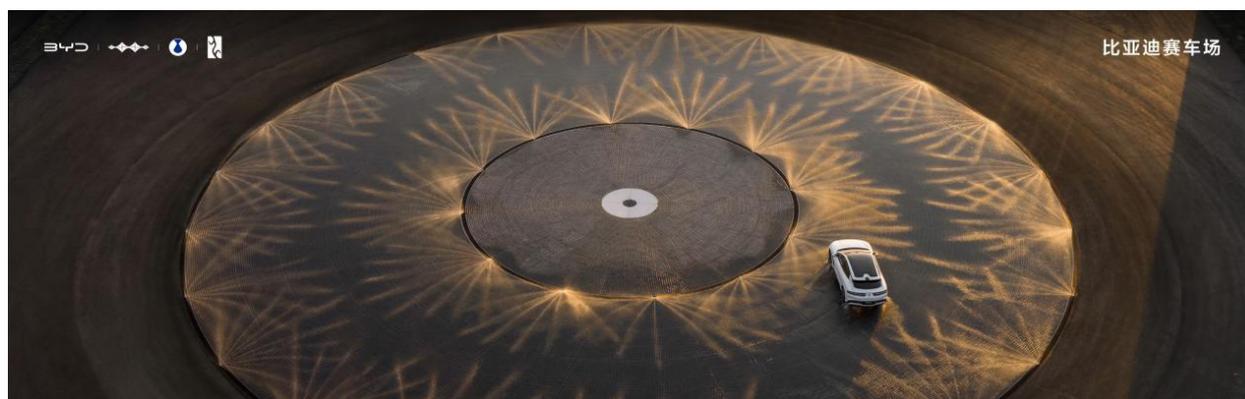


## 安全技術体験エリアも充実

「キックプレート」では、濡れた滑りやすい路面と可動式プレートで氷上のような状況を再現し、緊急回避操作を安全に体験できます。

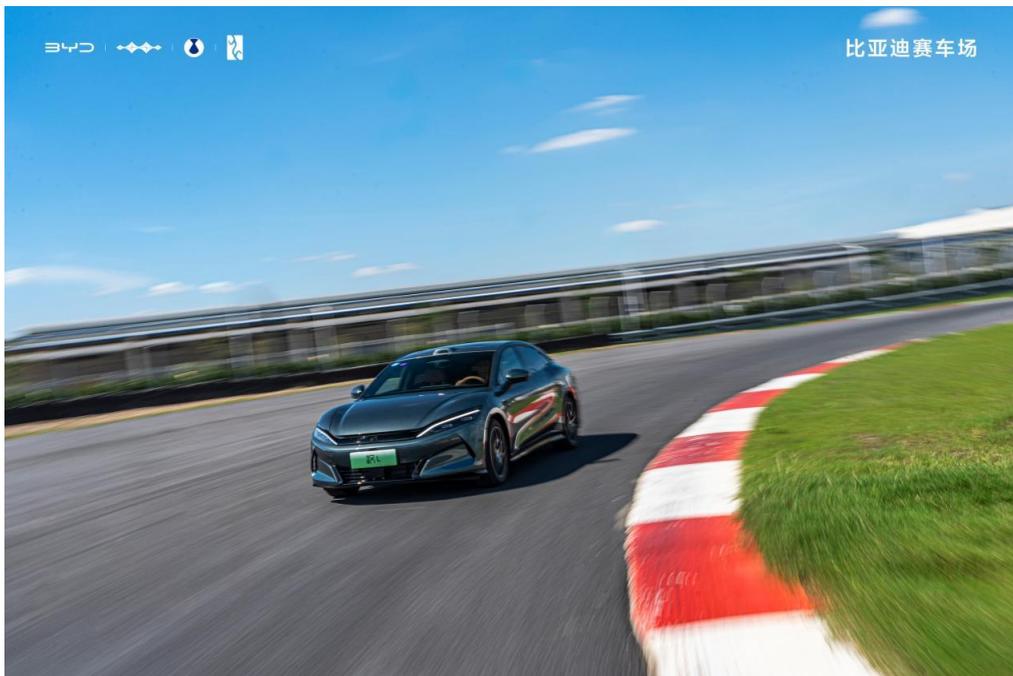


中国初の直径 44 メートルの「低摩擦サークル」では、玄武岩タイルの上に水膜を作り、氷雪路面並みの摩擦係数を実現しています。BYD の精密な電子制御により、安定したドリフト走行を誰でも楽しめます。



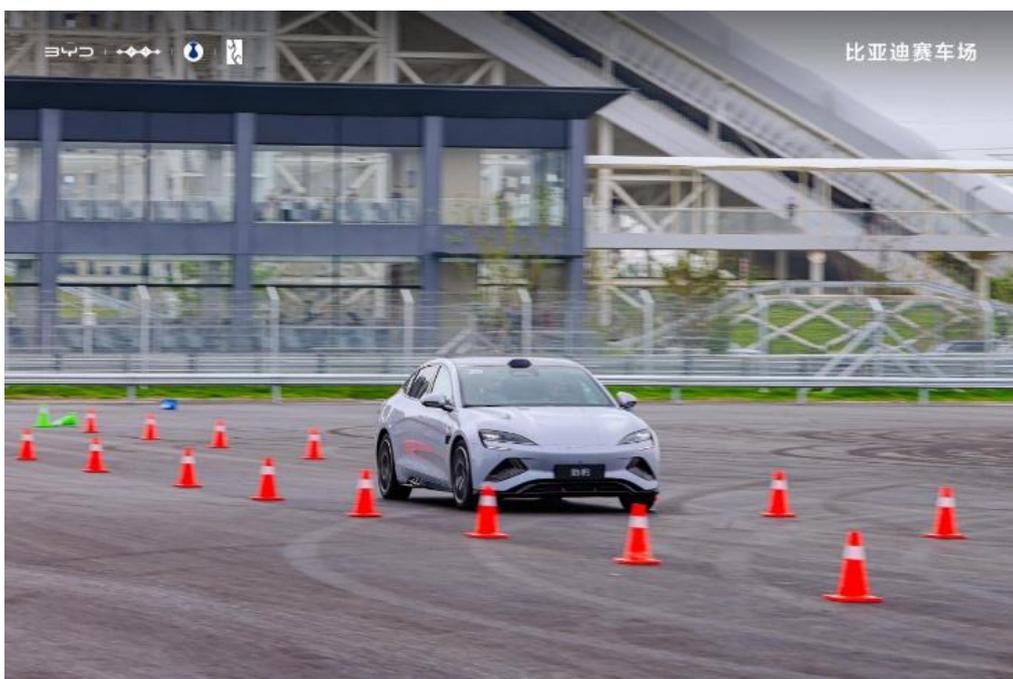
## レースからオフロードまで幅広く対応

全長 1,758 メートルのレーストラックは 9 つのカーブと 550 メートルの直線を備え、高速加速やコーナリング性能を試せます。



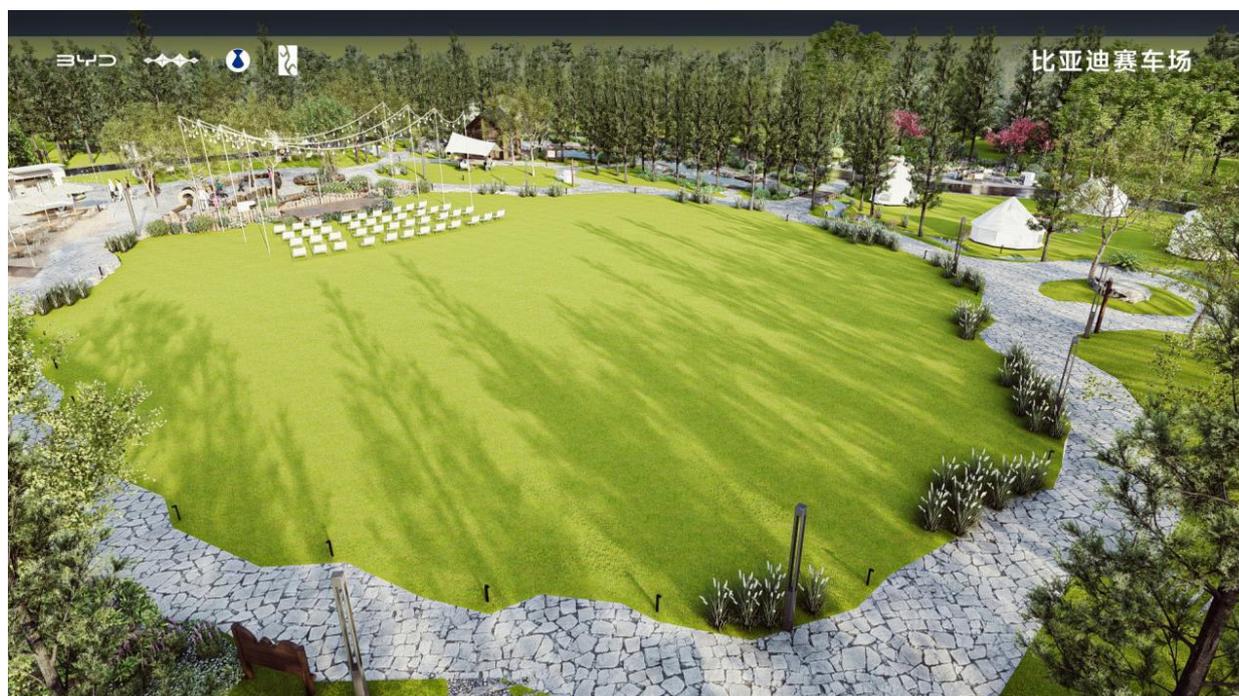
面積 1 万 5,300 m<sup>2</sup> のダイナミックパドックでは、スラローム、エルクテスト、自動駐車などで先進運転支援技術 (ADAS) を体験できます。

さらに、初級から上級まで 27 種類のオフロードコースを用意しており、都市型 SUV でも初級コースを安心して走破できます。



## 今後の展開

鄭州に続き、合肥と紹興にも新たなサーキットを開設する予定です。紹興のオフロードエリアは標高 500 メートル、面積約 133 ヘクタールの広さがあります。



また、BYD は中国自動車・オートバイ運動連盟（CAMF）と協力し、100 万人に向けたレース文化の普及と 100 人のプロドライバー育成を目指す「ニュートラック・スキーム」を開始しました。

CAMF の詹郭軍会長は「BYD のサーキットは、中国における NEV レースのプロ化を加速させ、自動車文化を新しく作り直すだろう」と述べています。



## 【BYD（比亞迪/BYD Company Limited）について】

1994年に充電式バッテリーメーカーとして設立。現在は自動車、軌道交通、新エネルギー、エレクトロニクスの4事業を展開し、世界6大陸・100以上の国と地域・400以上の都市でゼロエミッションエネルギーソリューションを提供。香港と深圳証券取引所に上場、フォーチュン・グローバル500企業。詳しくは <https://www.bydglobal.com> をご覧ください。

## 【BYD Auto について】

2003年設立。純電動車およびプラグインハイブリッド車の開発に特化し、バッテリー、電動モーター、パワーエレクトロニクス、車載半導体といった新エネルギー車の全バリューチェーンで中核技術を保有。ブレードバッテリー、DM-i/DM-p/DMOハイブリッド、e-Platform 3.0、CTB構造、DiSusインテリジェントボディコントロールシステム、Xuanjiアーキテクチャなど革新的技術を次々と実用化し、世界で初めて化石燃料車の生産を停止した自動車メーカーとなっています。

【参考資料】本資料はBYD（中国・深圳）が発表したプレスリリースを日本語に抄訳したものです。  
本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については当言語が優先します。

※本リリースの掲載内容は画像を含め、2025年8月20日（水）現在の情報です。内容は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

## 製品に関するお問い合わせ：

BYD Auto Japan 株式会社 お問い合わせフォーム：<https://byd.co.jp/contact/>